

第3回大船渡市防災学習ネットワーク運営協議会 議事要旨

開催日時	令和5年2月10日（月）午前9時30分～午前11時50分
開催場所	シーパル大船渡 大会議室
出席者	11名 （柴山明寛会長、鈴木弘委員、佐々木康人委員、金野律夫委員、齊藤賢治委員、首藤進悟委員、鈴木満広委員、管野賢委員、江刺雄輝委員、松川伸一委員、阿部博基委員）
欠席者	2名（今野勝則委員、遠藤和枝委員）
事務局	防災管理室（佐藤室長、山田次長、清水主幹、今野係長、吉田主事）
議題（案件）	1 開会 2 あいさつ 3 報告 （1）令和4年度事業の進捗状況について 4 協議 （1）大船渡市東日本大震災追悼施設整備方針（案）について 4 その他 5 閉会

1 開 会

2 あいさつ（柴山会長）

トルコで地震があったが、トルコに関しては基本的にはR Cのフレームで作られていて、壁はブロックが積み上げられているという建物なので、日本の建物よりはすごく弱いものとなっている。柱が折れてしまってフロアがそのまま落ちてしまって生きる空間がないようなかたちで潰れてしまう災害が多い。日本ではなかなか起こりづらいが、海外ではこういう建物が多い。私たちができることは、建物を強くしていただくことを海外の人たちに言うてもらうことを改めてお願いするところが大きいところである。トルコは耐震基準がしっかりしているが、なかなか守ってもらえないというのが現状である。よく言われるのは、ノンエンジニアリングといって、技術者が関わらないでまちの建築屋が形になればいいというような作り方をしており、4割から6割がそういう建物と言われている。日本では建築基準法で決まっているが、海外では決まっていなくてあるので、海外から来た人たちに関しては、どういうふうにしていけばいいかを言っあける、その後の避難生活についても寒波が来ているのでその部分はものすごく大変なところであるので、日本の経験をうまく伝えていければ、災害関連死もなくなる可能性はある。今後インバウンドを視野に入れながら、防災学習ネットワークでしっかり伝えていければと思うので、皆様のご協力をお願いしたい。

3 報 告

(1) 令和4年度事業の進捗状況について

◆意見等

○柴山会長

- ・各施設までの移動時間だが、大船渡市立博物館が 17 分とあるが、指定ルートだと 20 分と書かれている。また、移動時間は徒歩なのか車なのか書く必要がある。正確な時間をしっかりした計算で行ってほしい。

○柴山会長

- ・東日本大震災津波伝承館が載っているが OK はもらっているのか。

→事務局

- ・確認する。

○鈴木（弘）委員

- ・おおふなぼーとの役割にコーディネートとあるが、まだ協議が進んでいない状況で記載されると誤解を与えるのではないか。

→柴山会長

- ・このままだと齟齬があるので、コーディネートと載せるのであれば、観光物産協会と話をしてどこまでコーディネートをしていただくのか決める必要がある。

○齊藤委員

- ・各施設等の移動時間だが、おおふなぼーとと大船渡津波伝承館が上下に書いてあるが、中心的な役割に見られるので恐れ多いという感じである。伝承館と言っても建物があるわけではないので、こういう表記はちょっとマズいと思う。
- ・建物がない伝承館なので、名前も改めようかと思っている。大船渡津波伝承会とか、そういうかたちにしたら建物がなくても通用するかなと思う。お客さんからどこにあるのかという指摘がけっこうある。

→柴山会長

- ・大船渡津波伝承館という名称はすぐ変わるのか。

→齊藤委員

- ・一般社団法人で運営しているが、今年の 3 月いっぱい解散しようと思っている。

→柴山会長

- ・事務局と協議してどうするか示していただきたい。

○柴山会長

- ・チラシの市立博物館の写真だが、建物の外観だけでなく、展示内容などの写真を加えた方がよいのではないか。

→鈴木（満）委員

- ・建物の外観と室内の展示について載せるように事務局と相談する。

→柴山会長

- ・事務局側への注文として、見た人が分かりやすいような形にしてほしい。

○柴山会長

- ・市民体育館前時計だが、ひきの写真がないとどこなのかわからないのではないか。

○金野委員

- ・大広間に赤崎町の被災前のまちの風景や震災による被災状況、復興状況などがわかるように、市立博物館からいただいた写真を展示しようと思っている。

○鈴木（弘）委員

- ・施設紹介の中に「住所」とあるが、「住所」ではなく「所在」ではないか。

○柴山会長

- ・防災チェックシートで、第一避難場所と第二避難場所を使っているのが気になる。法律上では指定緊急避難場所と指定避難場所となっているので統一する必要がある。

○柴山会長

- ・パンフレット 10,000 部をどのように配布するのか。

→事務局

- ・防災学習ネットワークの関係施設や小・中学校、市外の津波伝承施設などに配布する予定である。

→柴山会長

- ・どこにどれくらい配るのか、県外の小・中学校に配布できるようにしてほしい。

○柴山会長

- ・資料に記載されている出前授業は誰が行ったのか。

→事務局

- ・防災管理室の職員が行った。

→柴山会長

- ・市役所職員が行うのもいいが、防災学習ネットワークではいろいろな方がいるので、その方たちに派遣依頼をお願いできればよいと思う。市のバックアップが必要だが、そのようにできれば、防災学習ネットワークを理解するし、そういうところに依頼しようというつながりができる。

○松川委員

- ・モデルコースだが、それぞれの施設の見どころや何を学べるのかなどといった情報も載せる必要があるのではないか。コースを回ることによってどれだけの学びが深まるのか、情報として載せた方がよい。観光地などのモデルコースでも注目点は書いてある。

→柴山会長

- ・モデルコースはどういう目的で作成したのか。

→事務局

- ・エリアを指定して時間に合わせて回れるコースとして作成したものである。

→柴山会長

- ・何の目的で巡るのか考える必要があるし、学習する人の立ち位置を考える必要がある。津波伝承館で震災直後の話を聞いて、防災学習館で避難所の話を聞く、産業復興の話を聞くなど、そういうような目的が必要である。

○鈴木（弘）委員

- ・モデルコースはどうすれば完成になるのか。

→事務局

- ・事務局で作成したが、委員の皆さんからも意見があると思うので、そういった意見を踏まえながら作成したいと考えている。

→柴山会長

- ・観光交流推進室と協議したのか。

→事務局

- ・特に協議していない。今後、観光交流推進室とも話をしたい。

→柴山会長

- ・防災学習だけでなく、市内をまわって美味しいものを食べたり、産業を見たり、いろいろなことを実際にやっていく必要があるのでは、関係者にも確認していただく必要がある。

→柴山会長

- ・おおふなぼーとで案内するという形なのか、それともホームページだけなのか。

→事務局

- ・市のホームページに載せたいと思っているし、今後調整していきたい。

→柴山会長

- ・パンフレットを3月に完成して配ることになるので、次の協議会の前には確定することが必要だと思う。

○柴山会長

- ・なぜ、大船渡市防災学習館は指定管理が入っているにも関わらず第2分類なのか。第3分類になるのではないかと。

→事務局

- ・震災伝承ネットワーク協議会で決められたもので、詳しいところはわからないが、担当者からは、予約が必要ということが第2分類になったというようなことを言われた。

→柴山会長

- ・第3分類と第2分類はかなり違うので、無理にでも第3分類にする必要があると思う。

→事務局

- ・第3分類にしたいが、震災伝承ネットワーク協議会で判定することなので、100%こちらの意に沿うような結果にはならないと思っている。

→柴山会長

- ・ぜひ第3分類に上げるようにしてほしい。常設展示でなければ第3分類にならないということもあるかもしれないが、震災伝承ネットワーク協議会と詰めていただきたい。
- ・パンフレットに載っているが、登録されていないところもあるので、そういうところは登録する必要がある。

○柴山会長

- ・「かたりつぎ」や「津波伝承館未来シンポジウム」は、市が共催というかたちで行っている事業で、市独自で行うイベントについてはどう考えているのか。

→事務局

- ・来年度については特に予定はしていないが、来年度は追悼施設を整備することとしており、その際にイベントなどをできればよいと考えている。

→柴山会長

- ・市としてしっかり記憶を残していく、伝承ということをしっかりやっていくというところで、来年度には計画していただきたい。予算取りしていないということもあると思うが、パンフレットを配るなど、お金がかからない方法もあるので検討いただきたい。

○柴山会長

- ・防災学習館のパネルが増えるということだが、パネルは市に対して要求できるのか。

→金野委員

- ・昨年に中央公民館で展示用パネルをいらないかとの話があったが断った。その後、市立博物館から写真をもらったので改めて中央公民館に連絡したら処分したとのことだった。展示パネルの骨はあるが、板がないので自分たちで代用品を作ればよいと思っている。

→事務局

- ・予算が関係することなので、この場で対応するということも言えないが、何かしら協力できることは協力していきたい。

○鈴木（弘）委員

- ・防災学習ネットワーク協議会がうまく機能していない気がしている。事業の実施時期が遅れているので、新年度は早めの対応をお願いしたい。

→事務局

- ・岩手県総合防災訓練や最大クラスの津波の浸水想定が出たり、手が回らなかった部分があったので十分反省している。来年度は計画に則ってやっていきたいと思っているのでご協力をお願いしたい。

→柴山会長

- ・被害想定が出たりしているなど、忙しいのはわかっており、今後も忙しいとは思いますが、早めの対応をお願いしたい。

○佐々木委員

- ・校長会でも、ネットワークの取組を紹介していきたいと思っている。子どもたちの防災学習をしたいとなったときに、担任の先生が施設などを調べてやっている状況なので、モデルコースができて、ここのコースを回ればどういったカリキュラムを学べるのかというようなことがわかれば利用できるのも魅力的な取組だと思う。

○齊藤委員

- ・市外の中学校などが、大船渡津波伝承館を目指してお越しにいただいている。まちの案内などもやっているのも、モデルコースがあれば案内しやすいので詳しく作成してほしい。

→柴山会長

- ・おおふなぼーとのホームページのアクセス数だが、どこからが多いかというと北海道や東京が多い。津波伝承館を見るために増えているのかもしれない。

○鈴木（満）委員

- ・防災学習ネットワークを機能させるために重要なのはコーディネートだと思う。ここに来て何か学びたいということであれば、人材を育成するということが重要であると思う。構成施設が自分たちの役割や他の施設がどんなことをやっているのかということも理解しなければいけないと思う。ネットワークが機能するように、コーディネートできる機関や人材が必要である。

○阿部委員

- ・おおふなぼーとの担当部署だが、詳細が詰まっていない中で観光物産協会に委託し、委託した後どういうふうに進めるか毎年苦労している。ネットワークについては、市役所内でも関係部署が多く、事務局の業務も毎年増えているような状況で、当初どおりのスケジュールで行かないこともわかる。ただ、このままズルズルいくのもよろしくないもので、これはお願いだが、新年度は様々なことをやろうとすると遅れてしまうこともある

ので、業務を絞って今年度はこういうのを片付けるというところで、関係部署と協議しながら一つ一つ固めていくしかないのではないかと感じたところである。

- ・モデルコースは自家用車を対象に設定しているようだが、小・中学生は車を運転することができないので、自転車などを使って回れるようなコースがあったほうがよいのではないか。国交省でもサイクリング関係を推奨しているので、そういうのもコースに組み込んでもらえればよいと思う。

→柴山会長

- ・一つ一つ片付けるのも手だとは思いますが、早めに動くしかないと思う。他の連携や業務が忙しいということもあるので、防災管理室ではなく、他の部署に移すという手もあると思うのでそこも検討してほしい。

○松川委員

- ・構成施設の連携が具体的に見えてこない。他の施設の情報がないと施設間の連携ができないと思うので、ネットワークを前に進めるような動きが必要ではないか。

○管野委員

- ・消防署として何が協力できるかというところだが、小中学校の利用促進では、防災センターには、市内だけではなく市外からも職場体験や防災学習に来る。この時に消防の話をメインにしているが、震災の被害状況や対応状況などについて防災管理室が話をしているということであれば、その部分を教えていただき、職場見学に来た時に私たちから子供たちに教えるというようなことも協力できると考えている。
- ・3.11 伝承ロードの登録についてだが、防災センターが今後登録になり、第3分類となると常時説明員を配置することになる。説明する人員を割くことができないので、登録は第2分類でお願いしたい。

○首藤委員

- ・魚市場のホームページ上でも魚市場の見学案内をするということになっている。こういうことを学べるのかという話もくるのでモデルコースの早く作っていただければと思っている。魚市場にも市立博物館から大船渡町周辺の写真をいただき展示しているが、その他の場所で展示している情報などを共有できれば案内しやすいと思う。

→柴山会長

- ・市立博物館では、震災コーナーに展示したものを配布したのか。

→鈴木（満）委員

- ・市立博物館の中で特別展示を何回か行ったが、震災から10年が経過したということで博物館としては今後特別展示の計画がない。ただ、写真を利活用してほしいので、赤崎町の写真は赤崎地区公民館に、大船渡町の写真は魚市場に、というように震災の伝承ということでそれぞれの地区公民館等の活動に活用してほしいと渡したものである。それぞれの地区では、3.11の前後や文化祭などの際に展示したいとの話であった。

○金野委員

- ・赤崎町の復興が遅れており、防潮堤工事が1年延びると東海新報に載っていた。そういうふうな状態なので赤崎には来にくいのかなと思うが、大船渡町の茶屋前に子どものころは歩いて行き来していたので、終わればそうでもないと思う。現在がそういう状態なので、場所が悪いと思われるのが定着するのは困ったものだと思っている。

- ・津波からの復興が遅れていたもので、赤崎地区以外は次に向かって歩き続けているところだが、やっと地区の人たちの心が落ち着いてきたというところであり、大型の重機が動かなくなってきたということがこの頃である。ここまで地区の皆さんにも協力をお願いしていたが、だいぶ皆さん疲れてきており、この辺でギアチェンジして賑やかに、元気にいくという方法でも入れないと、教育してくれる人たちが少なくなるのではないかと心配しており、現実には津波のビデオを撮った人が、この頃来ないので心配している。

→柴山会長

- ・防潮堤が完成しておらず安全ではないということもあると思うが、防潮堤を作っているところは今しか見られないので、学校教育などに活用していただきながら、防潮堤の作り方を見ていただいて赤崎を知っていただくというところもあると思う。

○鈴木（弘）委員

- ・観光物産協会で大船渡市に人を呼ぶためにいろいろな活動をしているが、令和3年と令和4年で一番伸びているのは教育旅行で商談会に行くときに何をコマーシャルにするかと言えば、キャッセン大船渡で開発した防災の体験ゲームである。パンフレットにある施設は見たり聞いたりするところで、キャッセンのゲームは見たり聞いたりするだけではない学びがあり、これが旅行会社に注目されている。旅行会社の人も呼んでやらせているが、これは修学旅行にも使えるということである。今後インバウンドにも開放されるので、旅行会社からゲームを多言語化してほしいとの要望がある。ネットワークに他にはない、見る聞くだけでなく、学ぶ、考える、判断できるというコンテンツもあるので、ネットワークにキャッセン大船渡を入れるとか、ゲームをPRするなど、広がりをつけていくべきだと思う。

→柴山先生

- ・ゲームについては、ぜひ入れていただきたいが、あれだけでは完結しないので、防災学習ネットワークで全体的に補完していく、その中で証言記録があるなど、実際に骨組みを作っていく、周りを埋めていくには、ゲームだけではダメなので、そういうようなところも組み込んでいく、今後新しいゲームもできるかもしれないし、それをバージョンアップしていけばと思う。

○柴山会長

- ・これを報告事項としているが、本来は協議事項であるので憤りを感じている。防災学習ネットワークの報告をして、その中で今後どうしていこうかという協議があってやっていくものである。防災学習ネットワークを軽視しているように見える。追悼施設整備も重要なので両方とも協議事項になると思う。

4 協議

(1) 大船渡市東日本大震災追悼施設整備方針（案）について

◆意見等

○齊藤委員

- ・大船渡に来て一番目立つのは、太平洋セメントの煙突である。あそこまで高くする必要はないが、市内で一番津波が高いところは、駆け上がりで40mといった場所があるということである。最低限50mくらいの塔を作りたい。どこから見ても津波塔と認識され、思わず拝みたくなるようなものがほしい。

- ・名前は入れても入れなくても良い。50年、100年経つとあの世からもいなくなるという宗教上の話もあるのでなくてもよいと思う。むしろ、そういうことがあったということでいろんな人に拝んでもらうことがよい。

○首藤委員

- ・氏名揭示はしたほうがよいのか。

→柴山会長

- ・氏名揭示は他の自治体でもやられているが、そこでも賛否が出てきている。絶対数を書くだけでなく、一人一人名前を書くことによって深く知ることができるということであり遺族が中心になる。いろいろなパターンがあるので名前を書かなくてもよいと思う。

→首藤委員

- ・追悼施設を目がけてくる人がどれくらいいるのか疑問であり、それであれば、おおふなぼーとの屋上などにあったほうが訪れやすいと思う。

→柴山会長

- ・名前が書いているところで一番近いのは、陸前高田のアバッセのところになるので、一度見てもらえばよい。

→齊藤委員

- ・気仙沼も名前が書いてあり、鉄板に刻印しているようである。

○柴山会長

- ・他の自治体の紹介例だが、名取市や塩釜市、仙台市などが抜けている。名取市はモニュメントもしっかりしており、名前の銘板がある。
- ・アンケートも場所だけでなく、どういうふうなものが適しているのかということしか聞いておらず、住民の意向というより、関係者の意向となっているので、場所の意向についてはアンケートを取ったほうがよいと思う。これはどこに置いたり、どういうものがあつたりという内容なので、それと場所はまるっきり違うので、本来はもう一度候補地を決めてアンケートを取ったほうがよいと思う。決まらないとは思いますが、アンケートを取ることは重要だと思う。

○金野委員

- ・追悼施設を大勢の人に見ていただく、忘れないでいただくことは、非常に大切なことなので、そのためには市外から来た人にも理解して見ていただくことが必要である。あくまでも観光施設ではない。観光に来た人にも見やすい場所にあつて、ここではこういう大変なことがあつたということを学習していただくものである。観光施設としてみるということは意味が違ってくると思う。

→柴山会長

- ・他の場所でも観光施設として見せているところはなく、そこに対する意味合いを持ってその場所に整備している。重要な意見だと思う。

○鈴木（満）委員

- ・津波の浸水区域かどうかということが評価の項目にも入っており、浸水区域だからここは落としたというようなことも書いてあるが、他の自治体の状況をみると浸水区域内に整備しているところもある。津波の浸水区域でダメだという理由は何なのか、単にイメージとして、慰霊碑がまた津波で流されるからなのか、心情的に浸水区域はうまくない

ということなのか、浸水区域がいいか悪いかというところは、ある程度明確に方向性を出したほうがよい。こういう理由で浸水区域でも構わないということであれば、選択肢も増えるのではないか。浸水区域について、どこまでこだわるのか、整理したほうがよいと思う。

→事務局

- ・浸水区域については、名前を入れた場合に、また流されるのかというような一般的な心情があるのではないかと思ったのでアンケートに入れたところである。ただ、アンケート結果を見ると、浸水区域よりも行きやすいところなどを重要視していたので候補地に浸水区域の場所も入れたところである。

→柴山会長

- ・私の考えは、浸水区域内でも区域外でも意味がしっかり通っていれば、それで問題ないと思っている。浸水区域外であれば、そこが避難場所であったり、そこに行けば助かるという場所にあるべきだと思う。
- ・今回の候補地から外れた場所の除外理由が、他のところにも当てはまるような理由となっているので少しおかしい書き方になっており、事務局が意図的にそうしているように感じる。民有地は難しいと思うが、民有地以外については説明不足だと思う。ここに残っているのは意図的に残しているような気がする。

○柴山会長

- ・やり方自体があまりうまいプロセスではないと思っている。アンケートの仕方や庁内の決め方、プロポーザルをするにしても、外部の有識者を入れるのか、いろいろな人に見てもらうのか、というようなプロセスが何もなしで進んでいって、結局市の意向で進んでしまうというようなかたちというのはいかがなものかと思っている。そういうところは気を付けたほうがよいと思う。
- ・場所に関しては、市民に決めていただくのが一番大きいところであるので、皆さんからご意見をいただければと思う。私自身もここがいいと思うことはいっぱいある。
- ・なぜ市役所が入っていないのか、市役所だと避難場所にもなるし、海を見ることができるので、なぜ検討されていないのか気になる。

○佐々木委員

- ・追悼や記憶を後世に伝えるという観点からすれば、たくさんの方々に見てもらえるような場所で、防災学習のコースの中に組み込んでいけるような場所であればよいと思う。

○齊藤委員

- ・2012年あたりからお客さんに津波伝承の話をしていたが、その後病気で2回入院、家の中でも不幸があったので、遠野の方に拝んでもらったら、津波で亡くなった方々が自分のことを喋ってほしいといっぱい霊が集まっていると言われた。拝んでもらった人にどうしたらいいか聞いたら、霊は甘いものを差し上げて拝むことが大事だと言われたので伝承活動の時は、まんじゅうを3個置いている。霊は人に拝んでもらうことが一番の癒しになるらしいので、多くの人に手をあわせてもらえれば、霊は喜んでくれるということである。宗教的なことはあまりよくないと思うが、大きな鉄塔、あるいは避難タワー的なものなどを整備し、霊が集まる場所として拝んでももらえればよいと思う。
- ・場所的には大船渡駅周辺の空き地が一番よいと思う。

→柴山会長

- ・被災地で震災学習を始める前には、必ずはじめに拝んでから始めている。震災学習をやるときはどんなプログラムであっても、手を合わせてから行うことを基本にしている。

○鈴木（満）委員

- ・追悼と伝承という目的でやっているの、例えば3.11の日に追悼式のようなものをその場所でやれば、追悼を目的とした人たちが訪れると思う。私たちが他のまちに観光で行った時も同じようなことがあると思うが、意図せず歩いているときに、ここで犠牲になられた方がいるのかということの手を合わせたり、頭を下げたりすることもあると思う。そうしたことを考えると、そこを目的地として目指してくる人というのは、かなり限られてくると思う。いろいろな人が訪れてくる中で、10年、20年、30年経っていくと、東日本大震災の時にここで何百人の人が亡くなったのかということを感じさせてくれる場所にもなると思うので、そういったことを考えたとき、多くの人々が目的としてくるのではなく、多くの人々が来た中で目に触れる場所がよいと思う。
- ・個人的には、一番みなと公園がいいのではないかと考えており、海が見えるし、まちや防潮堤も見え、震災の記憶、追悼を感じられる場所だと思う。行きやすい場所、分かりやすい場所がよいと思う。

→柴山会長

- ・塩釜市にはモニュメントが45号沿いにあり、駐車場もなく、歩いて行くのが大変なところであるが、常に目に触れるところにモニュメントがある。多賀城市に関しては、駅から降り立ったところにモニュメントがあり、来た人たちに、ここで震災があったということを知ってもらうために駅前に置いてある。常に目に触れる場所ということを考えてモニュメントを設置するというようなやり方もある。

○阿部委員

- ・4候補地のうち、関係しているのが2か所あり、どの候補地も整備に係る制約がある。候補地の評価にもあるが、一本に絞ったときにやっぱり整備できないということがないように、候補地を絞るまでにマイナス点の検討を進めていただきたい。

○松川委員

- ・他市町の追悼施設を何か所か見たが、手を合わせる場所としては落ち着いた場所がよく、心を静めるような場所であるべきだろうと思っている。4か所の候補地が提案されているが、そういった面から決定されるべきではないかと思う。
- ・6ページの経過にあるが、2回にわたり懇談会があり意見聴取をしたとのことだが、その中で具体的な話があったと思うが、それを踏まえての今回の整備方針なのか。懇談会ではどういう意見が出されたのか話を聞きたい。

→柴山会長

- ・懇談会の議事録を出していただき、意見があれば事務局に出してもらいたい。

○管野委員

- ・いろいろな制約がある中で、最も制約がないのが防災公園予定地になるが、評価については表の④から⑦にバツが付けられている状況である。釜石の施設も見たが、イベントに来た方が足を運んでいるのを見かけるので、やはり人が集まるところに整備するのがよいと思う。

○首藤委員

- ・人目に触れるところがよいと思っていたが、追悼という意味では静かなところがよいと思う。この両立は難しいので、伝承に重きを置いて人目に触れる場所がよいと思う。

○金野委員

- ・観光客などが、被災者の家庭で仏壇を拝むわけにはいかないので、施設整備は必要だと思う。忘れられない場所、大事にされる場所で、みんなが集まりやすい場所がよい。検討する方法については、検討する場があるようなのでそちらにお任せする。

○鈴木（弘）委員

- ・整備懇談会委員にもなっており、いろいろな方の意見を聞いてきたが、人それぞれであり、懇談会でも意見書というかたちで、多様な意見を述べるだけとなっている。懇談会で話したのは、東海新報で1月11日と12日に「大船渡市追悼施設整備の行方」という特集を組んだが、その中に役割について書いてある。「大船渡市が整備する追悼施設の役割は何か。まずは市として常に弔意を表し、そこに訪れた人々が思いを寄せる公共の場であり続けること、さらに未曾有の大災害を乗り越えた足跡と来襲するであろう未来の大津波に対し、犠牲者を出さない決意を示す場とする。」これを目的の中に果たす役割として書いてもらえれば、委員からもいろいろな意見があったのではないかと。また、記事では「こうした市の思いを強くしっかりとしたかたちで体现する姿勢が求められている。」とあり、施設が果たす役割とアンケートや懇談会、防災学習ネットワーク運営協議会の意見などをしっかりとしたかたちで体现する、それに尽きるのではないかと。と思う。

→柴山会長

- ・目的が2行のところは気になっており、2行の中に追悼することと記憶を後世に伝えることがあるが、本来は別な目的でその部分が混在しているので、それをどこに絞るかについては示しておかなければいけないと思う。プロセスをしっかりとやっているように見えるが、意外にそのとおりになっていないように感じており、市民にしっかりと聞いていないし、そういうところができていないところは苦言を言わせていただきたい。検討委員会を何回も重ねているが、しっかりそういう部分が検討できていなかったことから、東海新報にこういうふうに書かれてしまうのではないかと。思っている。
- ・私は、この意見を受けて庁内会議をした後に、もう一回外部の公の場で協議していただいた方がよいと思っている。その後に市長決裁を最終的にもらうというのが本来の進め方だと思うが、市民の皆さんが納得できるような形にしていきたいと思う。
- ・私としての意見としては、1か所でなくてもよいのではないかと。思っており、それぞれの浜にあってもいいと思う。そうでなければ越喜来や吉浜にないのはおかしいとか、そういうことになってしまうので、そういうことも庁内検討委員会ではしっかりと議論していただきたいと思っている。

5 その他

- ・特になし

6 閉 会

以上